

令和元年度 電気学会 高校生みらい創造コンテスト講評

電力・エネルギー部門編修委員会委員長

石亀 篤司

高校生みらい創造コンテストは、今年度第1回を迎えることができました。前回の高校生懸賞論文コンテストは、高校生が電気エネルギー技術を身近なものと感じ、我が国の基盤を支える重要な技術であること、未来を拓く有望な技術であることを理解し、電気工学を学ぶ契機となることを期待して始めました。高校生みらい創造コンテストでは、応募資格や提出書類の形式を緩和した反面、投稿内容については記載内容の指示、事前チェックの要求等を厳格化することで更なる高校生らしいユニークな発想の掘り起こしを期待し、新タイトルで始めました。

今回は、全国の高等学校、工業高等専門学校12校から28編の応募作品があり、厳正な審査の結果、論旨の展開、独創性、発展性、客観性、分析力、発想力など幅広い観点から評価し、最優秀賞1編、優秀賞1編、佳作3編を選考しました。また、高校生らしい着眼点で未来につながる技術をまとめた作品を「みらい創造賞」として1編を選考しました。

募集形式を論文、ポスター、プレゼン形式にし、連名も可能にしたことで、興味深い、楽しい、ユニークな内容の作品が多く見受けられました。具体的には波力風力や風力発電等に関する高度な実験・シミュレーション・考察を行なった作品がある一方で、身の回りの課題に焦点を当て、その解決策を検討したユニークな作品もありました。

評価の高い作品は、高校生らしい視点や考え方で課題を捉え、試行を経て積極的に自分の意見を述べておりました。一方で、アイデアは良いのですが考察や主張が少ない作品の評価は高くありませんでした。

今回の審査を通して、現代の高校生が電気エネルギーに関する技術や課題に対しどのように考えているのかを読み取るとともに、現代社会の誰もが関わる電気エネルギーについて、我々電気学会の会員が分かりやすく伝えていくことの重要性を再認識しました。また、コンテストに参加した高校生の中から、近い将来に、電力・エネルギー分野で活躍する研究者、技術者が現れることへの期待を強くしました。

今年6月には、次回コンテストへの参加募集を開始いたしますので、引き続き多くの高校生に参加願えるよう指導員の先生方および関係者のご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、本コンテストの企画・推進にあたり、共催のパワーアカデミーより多大なご支援、ご協力をいただきましたことに対し厚く御礼申し上げます。